**横山令奈**

大阪府箕面市に生まれる。両親の指導のもと７歳よりヴァイオリンをはじめる。父横山莞五、母故清水玲子、ナンドール・セデルケニー氏（元大阪センチュリーオーケストラコンサートマスター）に師事。２００６年よりイタリアに留学、ラウラ・ゴルナ氏師事のもと２０１１年クレモナ モンテヴェルディ音楽院を審査員一致の満点(dieci e lode)で卒業。

イタリア・クレモナ・スタウファー音楽院、イタリア・シエナ・キジァーナ音楽院にてサルヴァトーレ・アッカルド氏、イタリア・ポルトグルアーロ・サンタチェチーリア音楽院にてイヴァン・ラバーリャ氏にヴァイオリンを師事、室内楽を、シエナ・キジャーナ音楽院にてアレクサンダー・ロンクィッヒ氏、ノルウェー・トロンハイム室内楽アカデミーにてハット・バイエルレ氏（元アルバン・ベルグ四重奏団）に師事。

イタリアを中心にヨーロッパ内外(フランス、スペイン、イギリス、ベルギー、ノルウェー、オーストリア、ドイツ、アメリカ等)の重要な劇場、音楽フェスティバル(イタリア：ラヴェンナフェスティバル、クレモナ・ストラディヴァリウスフェスティバル、マントヴァ室内楽フェスティバル、プーリア・イトリア谷音楽祭／イギリス：オールドバラ音楽祭／ノルウェー：トロンハイム室内楽フェスティバル／アメリカ：ニューヨーク・モンドムジカ／他)で演奏し好評を得る。

２０１０年フィレンツェ・クレシェンド国際コンクールソロの部で１位を受賞。

２０１２年、ディエゴ・マッカニョーラ(ピアノ)と、アレッサンドロ・コピア（チェロ）と共にピアノトリオ "Trio Kanon" を結成しイタリア ドゥイーノ市の国際室内楽アカデミーにてTrio di Parma - パルマ三重奏団 - に師事、２０１８年トリノのピネローロ-トリノ国際室内楽コンクール（ジュネーブ国際音楽コンクール世界連盟）において第1位、合わせてブラームス作品最優秀演奏賞“Premio Cerutti–Bresso”、観客賞を受賞。そのほか２０１５年イタリア・ロスピリオージ室内楽コンクールで１位と観客賞を受賞等、数多くの国際コンクールで優勝、入賞を果たす。

２０１６年１１月に"Movimento Classical"よりベートベンのピアノトリオOp.70 n.1「幽霊」とOp.97「大公」、２０１９年３月にイタリア・ワーナーミュージックより「ブラームス・ドヴォルザーク ピアノトリオ」をリリースした。

イタリア室内管弦楽団（サルバトーレ・アッカルド指揮）、マントバ室内管弦楽団、ブレーシャ室内管弦楽団、ミラノ・ディヴェルティメント・アンサンブル（サンドロ・ゴルリ指揮）に参加。

クレモナ・アンティクワ古楽器アンサンブル及びビエッラ・ペロージ室内オーケストラにてコンサートミストレスを務める。

２０１３年よりクレモナ・ヴァイオリン博物館にて展示楽器の公開演奏者を務め、今までに同博物館にて A. ストラディヴァリウス：Clisbee 1669年, Joachim-Ma 1714年, Cremonese 1715年, Vesuvius 1727年、N. アマーティ：Lam-ex Collin 1669年 、G. グァルネリ デル ジェズー：Principe Doria 1734年,  Stauffer 1734年を演奏した。

２０１７年3月クレモナ・モンテヴェルディフェスティバル、モンテヴェルディ生誕450年を記念して行われたイベントで、クレモナ市を代表し、ブリュッセルEU本会議場にてクレモナ市所有のストラディヴァリウスを演奏した。

また２０１９年１月マドリードのイタリア大使館に招かれクレモナ市所有のストラディヴァリウスを演奏した。

２０１２年よりクレモナ・コスタンツォ・ポルタアカデミーのヴァイオリン講師を務める。

２０１８年よりクレモナ国際弦楽器製作学校（IPIALL）のヴァイオリン講師及び製作科の実習授業にて実習助手、及びクレモナ クラウディオ・モンテヴェルディ音楽院(学位修得コース)の室内楽講師を務める。